midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

５月号の１枚：「まな板から始まる森づくり」のハイライト

何故、我が国で国際認証材（森林管理認証林）が増えないか

日本の認証林の割合は国土面積のわずか2%

ドイツ・ボンに本部がある森林保護の世界の統一基準を満たした森林管理協議会が認める認証林は、世界に約1200ヶ所あります。その認証林は我が国では僅か35ヶ所です。我が国の森林率68%は世界第３位ですが、認証林の割合は国土面積のうちわずか2%（フィンランド97%、スウェーデン80%、ドイツ72%）です。（FAO、2010年）

毎度の繰り返しですが、一次産業（農林水産業）は生命の根源を担う産業です。特に森林は、葉による光合成で炭素を固定化し、呼吸をするための酸素を供給してくれます。また、雨水は樹木を潤し幹を伝って地下水となり土中のミネラルを取り入れ、すべての生態系に水を供給してくれます。その水は、沢から大小の川となって、田畑を潤し豊穣の水となり海に流れ込みます。海ではプランクトン、海草、魚介類を育て私たちに「海の幸」となり食卓を豊かにします。蒸発した水蒸気が雲となり、森に雨を降らせ森から出た水は循環して全ての生態系の「生命の保障人」となっているのです。世界第３位の森林率を持つ我が国が、この認証林２%と言うのはどういう事でしょうか。当会が森から出荷した幾つかの体験では健全な木材の流通システムが出来ていないと感じています。第２次世界大戦の廃墟の中から奇跡的ともいう第２次産業の発展により、経済復興を遂げたちまち経済大国になりました。結果、目先の経済の為、人類に最も大切な第一次産業：農林水産物政策がなおざりになっているのではないでしょうか。

自衛力は不可欠だが、生命の根源：森林･田畑・海と共に生きてきた「和の民族」が先の大戦の失敗を生かしていないのではないか。自然と共生して「共に生きる国」になり、世界をして「日本のような国に成りたい」と思われる祖国でありたいのです。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2015.05

5月 3日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

5月17日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

4月5日（第一日曜日）

木々もすっかり芽吹き、新緑の葉が茂る季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。
4月3日の小原の入山での森林整備作業では、先月の雨の影響で完成できなかったハイキングコースの道標づくりを予定していました。しかし約半数のメンバーが体調不良のため欠席となり、NPO法人緑のダム北相模の石村さん、川田さん、小林さんとForest Nova☆から3名、OBの治田さんの7名の参加になりました。当日の天気予想では雨を予報していたのですが、幸いにも活動中に雨が降ることなく、無事活動を最後まで行うことができました。

午前中の活動では、チェーンソーの整備班とハイキングコースの道標製作班に分かれ、午後は全員でハイキングコースの道標製作を行いました。まずチェーンソーの整備班では、チェーンソー講習で用いた教科書も用いながら作業を行いました。チェーンソーのチェーンがすり減り使えない状態だったので、新しいチェーンに交換する際にガイドバーも新しいチェーンに合わせるよう交換しました。残念ながら小原モデルには合わなかったようで、今回もチェーンソーは使えませんでした。来月以降は嵐山からチェーンソーを持ってきて使うことを予定しています。
午後のハイキングコースの道標制作班では、既に製材していた丸太にのみと彫刻刀で「←小原」「孫山→」といった道を示す文字を浮き彫りにする作業を行いました。また、手鋸で枝の処理をしていない丸太の枝払いも行いました。15本中3本完成し、3本は未完成、残りは未製材の丸太です。来月はチェーンソーを用いた製材、文字を彫る作業、そして完成したものから道に設置していく予定です。

近頃、暖かくなったかと思いきや、途端に気温が下がったりと体調を崩しやすい時期でもあります。その中で日々の身体の調子を整えることも、森林整備という非常にハードな作業を行う上で大切なことだと思いました。これから梅雨になっていくにあたり更に体調を崩しやすくなっていくので、ForestNova☆では体調管理により一層気をつけていきたいと思います。

釜谷　優太（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

4月19日（第三日曜日）

ＪＲ相模湖駅ではイワツバメが子育てを始めているらしく、構内を忙しく行ったり来たり。嵐山でもヤマブキ、イチリンソウ、ニリンソウが林縁を華やかに彩っている。まさに春爛漫の光景だ。

午前中はお花畑班に密着。４月２２日に予定の園路づくり（木材チップ撒き）の下準備。加えてトレカーサ工事（愛川町の工務店）の奥田ひろみさんが持参した綿の種を播くというので、お花畑班のメンバー総出で地拵えを行う。梅林のすぐ隣である。小さなお嬢さんが皆と一緒に種を播いている様子は実に微笑ましい。幼い頃から山や森に親しむって大切
なこと。次の活動日にはきっと可愛い芽生えを見ることができるだろう。

昨年、大雪のためつぶれかけたモッコウバラのアーチも今年は無事。これも来月が楽しみ。何年か前に植えつけたラズベリーも健在。今年こそ甘い味を堪能できそうだ。取材ついでにお花畑のエリアをまわって植物観察をしたところ、エビネ、イチリンソウ、フデリンドウ、ウラシマソウの群落を発見した。何年もここに通っているのに気付かなかったのは何故？　お花畑班のメンバーはさっそくこれらを保護区画に指定し、スズランテープで囲う。園路はこれらの区画を縫うようにして設置されることになりそうだ。

午後は森林案内。フォレストノバの新入生、一般の方お二人を交えて森のお話をしながら道なき道を辿り山頂へ。途中、高井戸中の生徒さん達が作ってくれたスズメバチのトラップを掛けながら進む。が、どうしたことか途中でコースを間違えてしまい、同行者に大きな迷惑をかけてしまった。何とか辿りついた山頂からは眼下に相模湖、遠くには三ツ峠、大菩薩連嶺の峰々を望むことができた。

この日、森林整備班は先月に引き続き間伐材の谷渡しを行った。総数２５本。これで作業はひと区切り。フォレストノバは間伐材の処理、今後のイベントに備えての箸やストラップ、ドアプレートを作製する。メンバーの一部は木工班にも加わり、材の仮置き場の基礎づくりを手伝っていた。夏頃までには仮置き場の姿が見えてきそうである。

生命の森宣言東京はＡ地区の倒木処理と玉切り。高井戸中はスギ４本を間伐した。今日も各班それぞれの作業ができた模様である。新緑に輝く森の中での充実した一日であった。

内野　郁夫（本会理事）

[報告１]
温かな光を灯して

春風が頬に心地よい季節となりました。色とりどりの草花が芽吹き、森が小躍りしているようです。

さて、時は少し遡って3月28日。ちょうど草花が芽吹き始めた頃、私達ForestNova☆は普段お世話になっている小原地域にいました。咲き始めた桜の下、小原集会場で竹を鋸で切ったり、お餅つきの準備をしたり、小原の方々とわいのわいのとお祭りの準備で大盛り上がり。今日は毎年開催しているお祭り、小原ライトアップの日です。

朝、10時前に小原集会場に集合した私達は、小原の三枝さんに渡された竹や鋸などの道具を使い、竹を切り始めました。小原の方々がお祭りの準備に来ていたので、一緒に準備をします。中には初めてお会いした方もいましたが、「力持ちだね、ありがとう」と、嫌な顔一つせずに話しかけたり、手伝ったりもして下さいました。

竹がひと段落した後は小原宿本陣へ行き、皆でお昼ご飯です。小原の方が用意してくださった沢山のおにぎりを頬張りながら、小原の方と会話を楽しみました。

午後からは小原集会場に戻り、子供達の為のお餅つき。私達ForestNova☆の女性陣はお餅を作る手伝いをしに台所へ、男性陣は残りの竹と、お餅つきの手伝いをしました。（５ページに続く）

[連載１]
相模湖・若者の森づくりから

私達ForestNova☆は「若柳・嵐山の森」「小原本陣の森」と、２つの活動地で主に活動してきました。しかし、他の森の様子や抱える課題は他に何があるのだろうと、ふと疑問に思いました。そこで、相模湖の森以外にも活動に行きたいと考えていたメンバーで、実際に活動地以外の森を視察に行ってきました。
今回行ってきた場所は、静岡県の富士宮市にある「株式会社ふもとっぱら」が所有している「毛無山」という所です。
「毛無山」とは、標高1,964mほどの山で、山名の由来は、樹木が一切無いことから（木無し）、或いは樹木が豊富に茂っていることから（木成し）と相反する説があります。更に、金山を有する山でもあり、江戸時代に採掘されていた採掘場跡が今も残る山でした。
「株式会社ふもとっぱら」は、林業だけでなく、「すべての人に 自然の中の生活を」をコンセプトに、富士山の麓の自然を活かした景感・体験・休暇施設も管理しています。更に、私の大学のOBの方が働いている会社で、今回の視察を快く迎えてくれました。
キャンプ施設を案内してもらった後、実際に森の中で話を聞くことが出来ました。毛無山は、管理されている所はしっかり道を作り間伐が進められていました。そして、天然記念物の「ニホンカモシカ」も生息している貴重な森でした。しかし、従事者が少ない等の問題もあり、管理しきれていない森もあるのが現状でした。
毛無山には施業している区画以外にハイキングコースもあり、そこで実際に山登りのアクティビティも行っているという事で私達も体験させて頂きました。ガイドを行ってくれた方の話や毛無山の金山という特徴をうまく活かしたガイドはとても楽しくて、自然を大いに体験できるようなアクティビティでした。
　この視察に参加して思ったことは、社長の考え方、想いがとても素晴らしいと言うことです。その想いとは、「林業は生産だけではない」という想いです。
キャンプも自然体験も「林業」だ、と。求められていることを「林業」でこなしていくと社長は語ってくれました。
この社長の考え方は、ForestNova☆の考え方に似ていて、とても共感できるものがありました。ForestNova☆も、生産(林業)の視点だけでなく、色んな視点から森を見つめて森の価値を見出し、それを活用していけるような活動、考え方を持っています。森には多種多様な価値が沢山あります。そんな森のように、多種多様な林業会社があると、日本の森も変わっていくのだろうなと感じました。

山田　和彦（Forest Nova）

地元の子供達がたくさんきて、楽しそうにお餅をつきます。石臼引きできな粉も作りました。つきたてのお餅は、きな粉と醤油、大根おろしで味付けされ、美味しそうな姿に。私達も沢山のお餅を頂きました。食べ終わった後は小原ライトアップまで時間があったので子供達と遊び回りました。私が余った竹で箸を作っていたら、一人の男の子が興味を持ったのかやってきたので、一緒に箸づくり。その子はお祭り中終始握り締め、おうちへ持って帰りました。

外も暗くなってきました。道に提灯を置き、いよいよです。蝋燭に火をつけ、竹灯篭を灯しました。温かな光が竹から溢れ、幻想的な風景に。次第に屋台も開店し、小原ライトアップは始まりました。

大勢の人が小原宿本陣に集まり、そこかしこから楽しそうな会話や、笑い声が響き渡ります。私達もお祭りを楽しみました。元町内会長の小林さんや本陣焼きを作っている方々が、私達にお酒や本陣焼き、豚汁を下さいました。子供達と遊んだり、小原の方とお話したり、たくさんたくさん笑い合いました。

月がすっかり頭上に登る頃、もうお開きの時間です。竹灯篭の火も消え、辺りはお祭りの活気の面影を残しながら静まり返っています。寂しさを背中に背負いながら身支度をする私達に、「来年は泊まり込みでおいで」と温かな言葉が小林さんから投げかけられました。外から来た私達をまるで家族のように扱ってくださる小原の方々。心の中に温かい光のようなものが灯されたようでした。たとえ卒業しても、活動場所が変わっても、いつまでもいつまでも関わっていきたいと、改めて思った一日でした。

世持　由美子（Forest Nova）

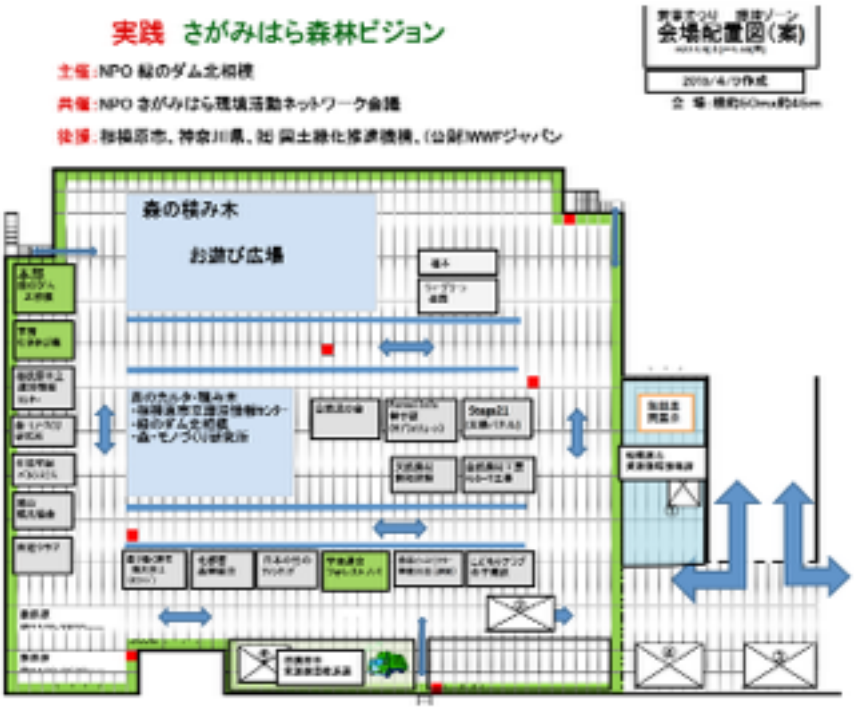
【事務局からお知らせ】

相模原市わかば祭りに参加します

平成２７年度は例年の桜まつりではなく、若葉まつりとして次の日程で行われます。出展内容は例年とほぼ同じですが、相模湖鉄道の出展はありません。

日時：
5月9日（土）午後1時～5時
5月10日（日）午前10時～午後5時
場所：
市役所脇の駐車場２F

また出展情報は本会facebookでも公開しています。
http://www.facebook.com/658588827578641



森の映像祭に出展しました

「森の映像祭」は、森林環境教育や森林ボランティアなどに関わる映像コンクールとして、これまで２回（2010年、2012年）にわたり「森林環境教育映像祭」として開催して参りました。第3回を開催するに当たっては、名称を「森の映像祭」（森林環境教育・山村振興映像祭）と致しました。それはこの映像祭で、これまで通り森林、林業の大切さやすばらしさを伝えその課題を考えると同時に、森林を守り育み活用してきた山村の今日についても対象とし、その振興についても考えたいからです。（同コンテストWebサイトより引用）

本会からは短編部門へエントリーを行いました。中高大学生が取り組んでいる間伐材のまな板を紹介するないようになっています。

台所でまな板で野菜を切る大学生が本会の焼き印に気づきます。そのことを祖父（本会理事石村が出演）にその意味を聞いたところ、学生のとった行動とは！？

という内容です。コンテスト終了後公開予定ですのでぜひご覧ください。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●今年度の会費を納入いただいた方です。ご支援ありがとうございます。
佐藤武行、瀧澤道子、トレカーサ工事、角田尚子、石原邦雄、曽根福三、小林照夫、山本忠順、川島正仁、田中万里子、白石晴輝、川田浩、井伊直充、北都留森林組合、辻田彪、武藤賢治、長谷川主水、金子紀和薄井　敬、永井広紀、岡田陽一、酒井秀夫、豊川真奈、吉田恒久、石村黄仁、石村鸞子（4/30現在）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版